

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会事務局
(事務局 藤木幸雄)
〒571 大阪府門真市殿島町7番6号
松下産業衛生科学センター内
TEL 06-906-1631
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第34回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会

後援 和歌山県医師会

学会長 茂原 治 (住友金属工業 株 和歌山製鉄所労務部健康管理センター長)

日時 1994年11月5日(土) 9:30~17:00

会場 住友金属工業(株)和歌山製鉄所PRセンター 1階ホール(第1会場)
2階ホール(第2会場)

和歌山市湊1850 電話 0734-51-3398

0734-51-3517(学会当日用)

シンポジウム

健康づくりとその評価

特別講演 健康管理の経済的評価—企業の立場からの分析—

主な行事

評議員会 12時20分から13時00分(第1会場)

懇親会 17時10分から18時30分(住友金属健康保険組合保健会館3階)

学会開催にあたって

住友金属工業株和歌山製鉄所労務部健康管理センター

茂原 治

第34回近畿産業衛生学会は、11月5日(土)に和歌山県で開催されることになりました。会員の皆様方のご来会を心から歓迎申し上げます。

学会は住友金属工業(株)和歌山製鉄所を会場に開催します。交通の便必ずしも良好とは言い難く、いささか気掛かりですが、会員各位の多数の参加をお待ちしております。

今回はシンポジウムとして「健康づくりとその評価」と題する企画をたてました。不況になると、とりわけ企業の中でその影響を最も早く受け、予算がカットされたりするのは健康管理部門であるという話をよく聞きます。その理由として、健康管理部門は不採算部門であるから、あるいは健康づくり活動は直接生産性に関係ないから等という理由が挙げられることが多いようです。すなわち、

そこには健康管理部門は企業の利益に貢献していない、という誤解がまだ根強く残っているからであろうと思われるのです。このような状況の中で、アクティブに健康づくり活動を推進しその評価を真剣に検討されている三人の方に報告して頂き、引き続き福渡教授に「健康管理の経済的評価」についてご講演いただきます。ご期待下さい。また、この度、日本医師会産業医生涯研修の単位として7単位が認定されましたことから、教育講演的要素も念頭に置いて企画しております。

なお、今回の学会は和歌山県医師会のご後援を得て開催することとなり、多大のご援助のもと、準備は順調に進められております。

最後に、実り豊かな学会になりますよう、重ねて、会員各位のご参加・ご協力をお願い致します。

第34回 近畿産業衛生学会プログラム

第1会場 (9:30~12:18)

9:30~10:18 座長 田淵武夫 (府立公衛研) (101~104)

- 101 スチレン取扱い作業者の最高可聴閾
○黒田基嗣¹⁾ 羅 維之¹⁾ 松本政信¹⁾ 森岡郁晴¹⁾
宮下和久¹⁾ 武田真太郎¹⁾ 河合俊夫²⁾ 水沼一典²⁾
池田正之³⁾

(¹⁾和歌山医大・衛生 (²⁾大阪労働衛生総合センター
(³⁾京大・医・公衛)

- 102 零細事業所の有機溶剤の取扱いの実態
○森岡郁晴¹⁾ 松本政信¹⁾ 宮下和久¹⁾ 武田真太郎¹⁾
河合俊夫²⁾ 岩井利和²⁾ 堀口俊一²⁾

(¹⁾和歌山医大・衛生 (²⁾大阪労働衛生総合センター)

- 103 溶剤作業場における溶剤の種類と分析条件
○宮川聡子 味山正人 樋上幸一 河合俊夫 堀口俊一
(大阪労働衛生総合センター)

- 104 トルエン曝露作業における血中および尿中トルエンの測定
○河合俊夫¹⁾ 水沼一典^{1,2)} 堀口俊一¹⁾ 池田正之²⁾
(¹⁾大阪労働衛生総合センター (²⁾京大・医・公衛)

10:18~11:06 座長 河合俊夫 (大阪労働衛生総合センター) (105~108)

- 105 FRP成形作業におけるスチレンおよびアセトン曝露と尿中代謝物の関係
○田淵武夫 熊谷信二 松永一朗
(府立公衛研・労働衛生)

- 106 清涼飲料水中の安息香酸について
○柴田真次 阪口ゆかり 村田和弘
(近畿健康管理センター)

- 107 1,1-トリクロロエタン曝露作業者の尿中溶剤濃度と尿中代謝物濃度
○水沼一典^{1,2)} 河合俊夫¹⁾ 堀口俊一¹⁾ 池田正之²⁾
(¹⁾大阪労働衛生総合センター (²⁾京大・医・公衛)

- 108 ジクロロメタン取扱い作業者の生物学的モニタリング
○道辻広美¹⁾ 大原昭男¹⁾ 山口恭平¹⁾ 藤木幸雄¹⁾
緒方正名²⁾
(¹⁾松下産業衛生科学センター (²⁾川崎医療福祉大)

11:06~11:30 座長 目黒忠道 (近畿大・医・衛生) (109,110)

- 109 冷凍倉庫作業者の作業実態と健康影響
○宮下和久¹⁾ 羅 維之¹⁾ 石居宜子¹⁾ 後和美朝²⁾
森岡郁晴¹⁾ 武田真太郎¹⁾

(¹⁾和歌山医大・衛生 (²⁾大阪国際女子大)

- 110 しいたけ栽培者のアレルギー症状とその対策
○原 一郎¹⁾ 上田照子²⁾ 高坂祐夫³⁾ 安井一清⁴⁾
須永匡彦⁵⁾
(¹⁾大阪府勤労者健康サービスセンター (²⁾関西医大・公衛
(³⁾大阪信愛女学院短大・公衛 (⁴⁾安井医院
(⁵⁾関西医大香里病院)

11:30~12:18 座長 小泉直子 (兵庫医大・公衆衛生) (111~114)

- 111 蛍光HPLC法, 紫外HPLC法, GC法によるオークルゾール測定の比較およびトルエン曝露との関連
○岡田洋子¹⁾ 河合俊夫¹⁾ 水沼一典^{1,2)} 小立尚紀¹⁾
堀口俊一¹⁾ 池田正之²⁾
(¹⁾大阪労働衛生総合センター (²⁾京大・医・公衛)

- 112 FEP測定における蛍光光度法と蛍光HPLC法との比較
○小立尚紀¹⁾ 河合俊夫¹⁾ 水沼一典¹⁾ 堀口俊一¹⁾
品川興造²⁾ 圓藤吟史²⁾
(¹⁾大阪労働衛生総合センター (²⁾大阪市大・医・環境衛生)

- 113 フッ化水素系表面処理剤曝露による急性肺障害とその処置法について
○河野公一 渡辺美鈴 織田行雄 土手友太郎 高橋由香
臼田 寛 坂上陽子 長家秀博 炭 美子 吉田康久
(大阪医大・衛生・公衛)

- 114 ラット経口投与によるホウ素の代謝と排泄動態
○臼田 寛 河野公一 渡辺美鈴 織田行雄 土手友太郎
高橋由香 坂上陽子 谷村義久 田川輝章 吉田康久
(大阪医大・衛生・公衛)

第2会場 (9:30~12:18)

9:30~10:06 座長 渡辺充春 (南労会松浦診療所) (201~203)

- 201 事業所における歯科保健事業の展開
○松本政信¹⁾ 後和美朝¹⁾ 黒田基嗣¹⁾ 宮下和久¹⁾
武田真太郎¹⁾ 新庄文明²⁾ 福田英輝²⁾ 多田羅浩三²⁾
渡辺充春³⁾
(¹⁾和歌山医大・衛生 (²⁾大阪医大・公衛 (³⁾南労会松浦診療所)

- 202 酸化合物の口腔粘膜および歯牙に及ぼす影響
○和田 健 森田展雄
(住友金属・和歌山製鉄所・健康管理センター)

- 203 歯周病と喫煙の関係について
○川嶋延之 森田展雄
(住友金属・和歌山製鉄所・健康管理センター)

10:06~10:54 座長 橋本 勉 (和歌山医大・公衆衛生) (204~207)

- 204 ライフスタイルと包括的健康評価に関する予防医学的研究 (第15報) コンピュータ技術者の人格傾向・ライフスタイルと役職・婚姻状態との関係

○江副智子 森本兼囊 (阪大・医・環境医学)

- 205 企業従業員におけるアルコール脱水素酵素 (ADH₂) 多型の頻度と飲酒行動に与える影響

○竹下達也 森本兼囊 (阪大・医・環境医学)

- 206 メンタルヘルスとクオリティ・オブ・ライフ (QOL) に関する予防医学的研究 (第20報)
- 勤労者におけるライフスタイルの変容と抑うつ状態 -
○丸山総一郎 森本兼囊 (阪大・医・環境医学)

1. 参加の手引き

- (1) 受付開始時間は午前9時からです。
- (2) 受付は、PRセンター内ロビーです。
- (3) 駐車場はありません。車でのご来場はご遠慮下さい。
- (4) 参加費は、会員は無料です。会員外の方は当日会費1,000円をお納め下さい。
- (5) 懇親会の会費は2,000円です。当日受付でお申込下さい。
- (6) 地方会会費 (年額2,000円) 未納の方は、近畿地方会事務局受付でお納め下さい。

2. 演者の方へ

- (1) 口演時間は7分、質疑時間は5分です。時間を厳守して下さい。スライド等は使用できません。
- (2) 学会誌「産業医学」掲載用の抄録を800字前後にまとめて、当日受付に提出下さい。
- (3) 配布資料を用いる場合は、150部程度ご用意下さい。

207 若年製造業従業者の生活習慣と肝機能の関連

- 森岡聖次¹⁾ 笠松隆洋¹⁾ 橋本 勉¹⁾ 葭川明義²⁾ 茂原 治²⁾
- (¹和歌山医大・公衛 ²住友金属・和歌山製鉄所・健康管理センター)

10:54~11:42 座長 岡田治子 (ダイハツ健保組合)(208~211)

208 「わたしの健康プログラム」を用いた保健指導の効果 -軽度肝機能異常者を対象とした検討-

- 上田美代子¹⁾ 奥野和代¹⁾ 木山昌彦²⁾ 小笠原正弘¹⁾ 糸井重幸¹⁾
- (¹近畿健康管理センター ²府立成人病センター)

209 コンピュータによる食事指導システムの評価に対する問題点について

- 奥野和代 上田美代子 小笠原正弘 糸井重幸
- (近畿健康管理センター)

210 肥満対策の現況と展開

- 三好佳子¹⁾ 三好雅美²⁾
- (¹三洋電機連合健保組合枚方診療所

²三洋電機連合健保組合保健医療センター)

211 健診とプライマリ・ケア

- 問診・診察所見の重要性と再検討について(その1)
- 中野碩夫¹⁾ 柏田恵理子²⁾ 宇野久一³⁾ 谷向 健³⁾ 田中秀和⁴⁾
- (¹M・Oクリニック ²MIC健康管理部 ³兵庫医大・内科 ⁴阪大・医・内科)

11:42~12:18 座長 近藤雄二 (天理大学・健康管理)(212~214)

212 日常の運動頻度に対するVO₂max・体脂肪率の検討 -某社の体力測定結果より-

- 柏田恵理子¹⁾ 圓藤吟史²⁾ 中野碩夫³⁾
- (¹MIC健康管理部 ²大阪市大・医・環境衛生 ³M・Oクリニック)

213 教職員の“成人病の6大危険因子”の保有状況

- 三浦康代¹⁾ 山下節義²⁾
- (¹公立学校共済・奈良支部 ²奈良医大・衛生)

214 FV波形解析による慢性喫煙影響の検討

- dv/d Flow分布と二次回帰分析-
- 目黒忠道 (近畿大・医・衛生)

第1会場 (12:20~13:00)

評議員会

工場見学 (16:00~17:00)

住友金属工業㈱和歌山製鉄所・熱延工場, 冷延工場

懇親会 (17:10~18:30)

住友金属健康保険組合保健会館3階

第2会場 (13:00~16:00)

シンポジウム 13:00~15:00

「健康づくりとその評価」

座長 中村淳一 (和歌山県医師会理事)

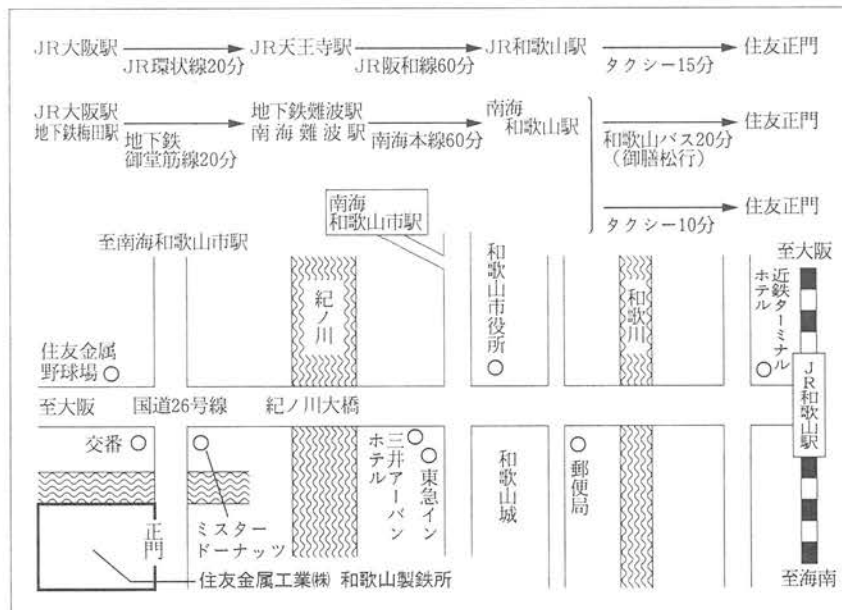
- 講演 I 岡田邦夫 (大阪ガス㈱人事部)
- 講演 II 池田正春 (産業医大・健康開発科学)
- 講演 III 南澤 勇 (住友金属工業㈱・コークス工場)
- 特別講演 15:00~16:00

「健康管理の経済的評価 -企業の立場からの分析-」

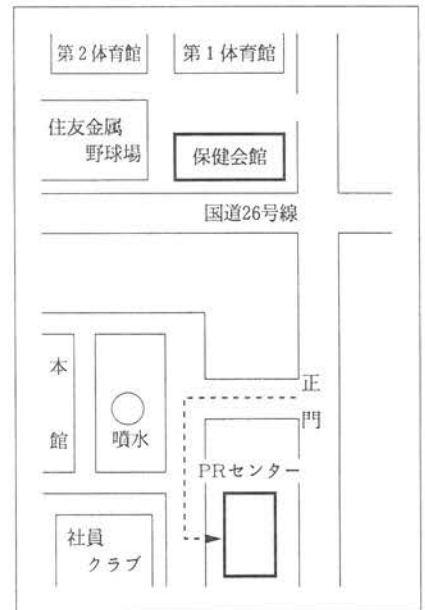
座長 武田真太郎 (和歌山医大・公衆衛生)

講演 福渡 靖 (順天堂大学・医学部公衆衛生)

会場への交通案内



住友金属工業㈱和歌山製鉄所付近



認定産業医および認定産業医をめざす方へ

本会のシンポジウム等は日本医師会認定産業医制度における生涯研修(専門)7単位, 基礎研修(後期)7単位が認められます。産業医研修手帳(日本医師会発行)をご持参下さい。

故 西尾雅七先生の御逝去を悼む



池田正之（京大医・公衛）

日本産業衛生学会名誉会員 西尾雅七先生は、肝硬変と肝細胞癌のため本年5月14日に逝去されました。享年84歳でした。

先生は明治42年11月30日現兵庫県丹南町に出生、鳳鳴中学、東京高校

を経て、昭和10年3月京都帝国大学医学部を卒業され、医学部副手、助手、講師、助教授を歴任ののち、昭和24年6月に京都大学医学部教授に就任され、以降24年の長きにわたって公衆衛生学講座を担当されました。さらに、昭和40年7月より京都大学教養部教授、昭和41年2月からは京都大学結核胸部疾患研究所の教授も併任されておりました。また、昭和40年6月から昭和42年3月までと昭和44年4月より46年3月まで京都大学評議員、昭和40年8月より41年7月まで京都大学学生部長を歴任され、京都大学の管理運営に大きな貢献をされました。

この間昭和27年からは47年まで20年の長きにわたって日本産業衛生学会の理事を務められました。その後昭和53年日本産業衛生学会の名誉会員となられました。あわせて昭和41年1月より50年1月まで第7期、第8期および第9期の3期にわたり日本学術会員としてわが国全体の学術研究、とりわけ社会医学研究の発展に尽くされた功績は誠に大きいものであります。

先生は公衆衛生学・労働衛生学領域において顕著な業

績を挙げられ、編著など指導論文数は200編以上に及んでいます。研究領域は多岐にわたっています。初期にはビタミン研究を心がけられ、とりわけ日本人ビタミンB₁₂所要量を決定されたことは国際的に今尚極めて高い評価を受けている所です。労働衛生学分野では鉛、セレン、二硫化炭素、ベンゼン、一酸化炭素などによる中毒について単に次々と学術上の優れた成果を挙げられるのみでなく、成果を社会に還元し、労働者の健康増進に役立てることに強い指導性を発揮されました。さらに医療制度のあり方に眼を転じられ、医療機関における患者の動態を解明するとともに、国民の健康保全には保健婦の活動が極めて大きい役割を担っていることを明らかにされました。わが国の人口構成・医療構造の変遷を洞察し、老人問題が近い将来国民保健上の大きな課題となることを30年以上も前に指摘されたことは先生の学識の豊かさとその先見性を如実に示すものでしょう。

昭和48年4月1日停年により退官されるとともに直ちに京都大学名誉教授の称号を受けられました。これに先立ち、京都大学在職中の昭和46年より退官後にいたるまで、京都府、京都市両自治体の衛生行政にも深く関与されました。京都府専門委員、京都市専門委員をはじめ京都府衛生研究所長、京都府公害研究所長、京都府公害対策審議会会長など多くの職務を果され、地域住民の保健と健康の向上に多大の努力をされました。

これらの活動は先生の志された実践的な社会医学そのものであったと云えましょう。先生のご功績の一編を紹介し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

近畿地方研究会代表者懇談

圓藤吟史（担当幹事）

近畿の8研究会の現状、課題について意見交換するために、代表者または代理が5月20日懇談会をもった。

職業性筋骨格系障害研究会（車谷代理）は93年に頸肩腕障害研究会と腰痛研究会が合併した。会員は約70名を有し、今年は11月19日に「腰痛の対策指針」をテーマに大阪で開催予定である。

有機溶剤研究会（河合代理）は1994年2月産業衛生技術研究会と合同で2、3年ぶりに開催し、約30名の参加があった。次回は1995年2月に開催する予定である。

産業衛生技術研究会（河合代理）は2年ぶりに開催した。分析技術の向上をめざした研究会であるので、代謝物の分析など機器の進歩にあわせて技術の向上に努めていきたい。

中小企業衛生問題研究会（水野）は現在地方会レベルで開いていない。新しい世話人を募集している。

じん肺研究会（坂谷）は30年前、石綿肺の研究から始

まり、以来34回開催している。今年は非定型の珪肺をテーマに開催を予定しているので呼吸器系疾患に関心のある方に広く集まってもらいたい。

職業性腫瘍研究会（圓藤代理）は今年で9回目になる。疫学、変異原性、動物実験を含め、毎年アスベストの話題とその他の化学発癌の話題を提供している。

産業看護研究会（岡田代理）78年から年2回開催している。毎年7、8月に講演会、1～3月にグループワークを行なっている。今年は看護ニーズに関するアンケートを行なって次回報告する予定である。

産業精神衛生研究会は欠席した。

研究会活動をより盛んにするためにジョイント研究会や研修会の開催をしてはどうかなど活発な意見交換がなされた。



話 題

奈良県御杖村を訪ねて



橋本和夫（金沢大学名誉教授）
奈良県の中央東部の宇陀郡に、三重県側につきでたかたちで、御杖（みつえ）村があります。この村名は伊勢神宮の創建のころ、倭姫命（やまとひめのみこと）が天照大神を伊勢に導いたという故事に因んで

つけられたという言伝えがあり、大阪や奈良と伊勢を結ぶ旧伊勢本街道に沿った由緒ある村です。その地からは紅葉で名高い香落溪や赤目四十八滝などの名所も遠くはありません。今夏の猛暑から、なるべくお金をかけないで少しでも逃れる方法はないかといろいろ模索しているうちに、ふと奈良市内の観光案内所で、“ふれあいの里みつえ”のパンフレットが目につき、ここでは自然とのふれあいはもちろん、避暑にもよく、旧小学校を改造した三季館という宿泊設備もあるとのことでした。早速問い合わせしてみると、都合よく一日空部屋があったので予約をして、当日約3時間かけて出掛けました。

着いてみるとそこには周囲の山々一帯が、思っていた以上に緑濃い立派な杉の森林をはじめ、恵まれた自然環境に満ちた静かなたたずまいでした。翌朝はその村から近い高見山（1249m）の中腹までの静かな山道を歩いて、新鮮な木々の香りを胸一杯吸込みながら森林浴を楽しみました。ここでは、村の人々との交流が自然に出来て、宿泊所の管理長M氏やその近くにすむN氏とも、初めてながら旧知のように親しくなりました。そして帰り際に、お盆過ぎの鮎の網漁の解禁日にはまた訪ねてくるようにとお誘いをいただきました。相変わらぬ酷暑から逃れたいとの、村の人々との再会を楽しみに、盆過ぎの一日近くの民宿を取って、また御杖村を訪ねることにしました。今度はN氏とその友人S氏とともに、その地を流れる桃俣川の清流で初めて鮎の手掴みにも挑戦しました。勿論私には出来る筈ありませんでしたが、N氏らは網の中に追い込んだ鮎を手作りのヤスを使って見事な手つきで捕らえていました。町中に住む私には思いもよらぬ自然そのものの生活に感動さえおぼえました。

今私が住む奈良の西の郊外は、近年住宅開発や道路改良がなされた一方、残念ながら自然の破壊や汚染が可なり進行しています。約25年前この地に住んでいた頃、よく散策した田舎道が頻りに車の行きかう危険な道となり、うかうか歩けなくなっています。緑に覆われた小さい山が、そっくり無くなっていることにさえ気付きました。我が身勝手な言い分かもしれませんが、もう開発はこれ

以上進んで欲しくないという気持ちで一杯です。

しかし、あの美しい御杖村にも私達とは別の悩みがあります。それは、日本の山村、僻地の多くが抱えている深刻な過疎化と人口の老齢化問題です。先程の鮎捕りの後、N氏のご家族と早速捕りたての鮎をご馳走になりながら、また帰り道で訪ねたM氏らと、この問題についていろいろお話をいたしました。この村を将来背負って立つべき若者を引き留める決定的な方策は大変難しいとのこと。現在、この素晴らしい森林や田畑を守る人々の平均年齢が60歳を超えたとのを知って、当事者ではない私達も重い気持ちにならざるを得ません。この村でも青少年村を作るなど、早くから数々の対策を立ていくつか実行に移してはいるが、村の経済力には当然限界があり、村自体による解決は決して容易ではなさそうです。

そこで、これは私のかねてからの願いではありますが、このような自然環境に恵まれた土地に、将来各種の企業や大学などが自前で長期滞在型の施設を設けて、従業員や教師とその家族に、一年間に少なくとも一度程度は十分な休息期間を過ごさせるといった、思いきった施策をとってはどうか。従業員が交代で利用できるようにすれば、業務に大きな支障なしに出来るでしょう。これまで働きづめで来た我々日本人も、もうそろそろ十分な休養の効果をもっと認識する時期に来ていると思われる。まとめて取る休養は、明日からの創造力と英気を養うために、なくてはならないものです。なにも欧米がすでにそうだからと言うのではなく、働く人々全てにそのような余裕が共有出来たらと願うからです。

今夏はわが国の各地で測候所が始まって以来の種々の記録を更新したようです。この猛暑に休養の必要性をいまさらながら痛感した結果、この雑感を書かせていただきました。

終に、私は昭和50年6月に大阪府立公衆衛生研究所を辞し、金沢大学医学部衛生学教室に移って20年近くを金沢で過ごし、この春定年退職いたしました。そして、去る5月末に元の住まいの奈良市西郊外に居を移しました。金沢には学生時代の7年間を加えると、約4半世紀間住んだことになり、大変愛着もありましたが、人間時折環境を変え心気一転するのもよく、また、関西地方の多くの旧友の皆さんとの再会の楽しみもあってのことです。

金沢での20年間は主として学生への環境衛生学、医学統計学および環境衛生実習などの教育と、神経中毒学に関する基礎的研究を行いました。この度奈良に戻ってからは、ずっと日々休養を楽しんでいます。あまり休んでばかりでは早くボケるぞ、と友人に脅かされてもいます。出来ればまた人様のお役に立てることがあればやりたいと考えています。今後とも会員皆様のご指導を直しくお願いいたします（平成6年8月）。

シリーズ 研究室の紹介(1)

和歌山県立医科大学衛生学教室

宮下和久 (和歌医・衛生)



当教室は、武田真太郎教授のもと、助教授、講師、助手各1名の研究スタッフと、大学院生1名、研究生

13名(うち1名外国人留学生)が日々研究に従事している。

産業保健分野に関しては、従来から一貫して産業騒音の実態および騒音性難聴について研究を進めてきた。聴覚に関する研究として、近年、一定音圧での可聴周波数の上限値(最高可聴閾)の測定法を確定し、その正常加齢曲線の作成および最高可聴閾の加齢変化に対する騒音曝露の影響を明らかにしてきた。また、最近では、有機溶剤取扱者に、正常人の加齢変化を超えた最高可聴閾の低下が認められ、さらに有機溶剤曝露による聴覚への影響が動物実験において電気生理学に証明されるなど、

有機溶剤研究の新しい展開に挑戦しつつある。

ところで、本誌への便りとして、昨年当教室と中国山東医大の聴力調査に関する共同研究をご紹介したが、その結果明らかになった事実の1つとして、中国の子どもたちに典型的なC^s-dipを伴う感音難聴が多数認められ、その原因と思われるアミノグリコシド系抗生物質と騒音との聴覚への相乗的影響についても動物実験を進めている。

また、作業関連疾患、特に脳心血管系疾患の予防対策をたてる観点から、和歌山市内の主な冷凍倉庫(F級、-20℃以下)2社の作業者の倉庫出入りに伴う循環動態の変動について調査研究を進めている。

また、和歌山県下に多数存在する小零細企業における労働衛生上の問題点を明らかにし、対策をたてるための調査研究を平成4・5年度には産業医学振興財団の支援を得て、田辺市のボタン製造工場群で、また、本年度からは中央労働災害防止協会の支援を得て、海南市漆器工業について実施する予定である。

以上、産業保健分野における教室の取り組みをご紹介しましたが、他に環境保健、地域保健、学校保健分野それぞれに研究テーマをもって活動しています。冒頭ご紹介したスタッフは、自称体力だけは自信ありの元気集団ですが、三十路を少し過ぎた講師が最も若いのが現状で、若い強力や新人スタッフを期待したいというのが、教室員の共通の願いです。

新刊紹介

「健康で安全に働く」(文理閣)

近藤雄二(天理大学体育学部)

会員でもある細川 汀(健和共和会労働医学研究所名誉所長)氏の編著による「健康で安全に働く」が8月に出版されました。副題に「これから働く君たちに」という言葉が付記されていますが、前書きを読むと、この本は数年前に小・中学校の先生達と学校の安全衛生について話し合った時に、子ども達だけでなく若い先生方が労働についてあまり知らないことを感じ、そのことを契機に執筆・出版されたものでことが書かれています。

本の内容はつぎの7章、すなわち、健康の意味、人間のしくみと労働、職業と労働、仕事の疲れと回復、危険有害な仕事-安全衛生-、女性の健康と母性、労働災害・職業病と、コラム、QアンドAから構成されています。

全体を読んでみると、この本が中学生や高校生を対象として書かれたことを忘れるほど引き込まれます。現代の労働者の安全衛生の重要な問題をわかりやすい記述で展開しているのです。学校の教員だけでなく、労働衛生を学びはじめる大学生のテキストとして、また職場で労

働衛生の業務に就きはじめたスタッフ等が手軽に読みすすめられる専門的な内容をもったものだといえます。

著書の本は、どの著作もそうなのですが、働く人の喜びや苦しみを分かちあいながら、働く人に役立つ労働衛生活動の実践の歩みをもってきただけに、読後にはいつも私自身の仕事や研究への意欲を奮い立たせてくれます。この本も例外ではありませんでした。多くの人に読んでもらいたい本です。

(書名:健康で安全に働く 編著:細川 汀)

出版社:文理閣、定価 1300円)



秋の研究会等のお知らせ

第23回有機溶剤中毒研究会

世話人 児玉 泰 (産業医科大学衛生学教室)
 日時 1994年10月28日(金)13時30分～10月29日(土)12時
 会場 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
 産業医科大学ラマツィーニホール
 宿泊 北九州市八幡西区的場町1-1
 北九州ハイツ (TEL 093-631-5582)
 参加申込:事務局にご連絡ください。

内容

特別講演

演題:化学物質毒性研究の分子生物学的アプローチ
 演者:那須(中島)民江(信州大学)

シンポジウム

テーマ:「有機溶剤職場の現状と問題点」

国際学会報告

演題:「人間の健康と環境」国際シンポジウム・
 第14回アジア労働衛生会議(ACOH)・
 第5回毒性センター国際会議

演者:池田正之(京都大学)

会費 12,000円(参加費1,000円, 宿泊費 6,000円,
 懇親会費 5,000円)

事務局 〒807 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
 産業医科大学衛生学教室 川本俊弘
 TEL 093-691-7429 (直通)
 FAX 093-691-9341 (直通)

第13回生物学的モニタリング研究会

世話人 緒方正名(川崎医療福祉大)

日時 1994年11月26日(土)午前10時～午後5時
 会場 〒108 東京都港区芝5丁目35-1
 中央労働災害防止協会・講堂
 JR東日本・山手線または京浜東北線・田町駅
 より徒歩3分
 (田町駅で環状線内回り方向に下り, 約100m直
 進後左方へ折れて300m程歩いた左側に池にシ
 ンボルの健康像を持つ安全会館があります。こ
 の建物の中に中央労働災害防止協会があります。)

内容

招待講演:気中有機溶剤の皮膚からの吸収
 産業医学総合研究所 鶴田 寛

特別発表:環境モニタリング指標としての血漿カドミウム
 自治医科大学 野見山一生

一般演題(募集中):演題名と発表者を10月22日(土)
 までに下記第13回研究会事務局にお申込み下
 さい。

シンポジウム:一般演題の中からシンポジウムを組むこ
 とも考えています。

参加の方法

ご出席の方は,準備の都合上,10月22日(土)まで
 に,下記第13回研究会事務局に,葉書にてお申し込
 み下さい。

第13回生物学的モニタリング研究会事務局
 〒329-04 栃木県河内郡南河内町
 自治医大衛生 野見山一生
 TEL 0285-44-2111 内線3139
 FAX 0285-44-8465

第42回産業疲労研究会

日時 12月2日(金)18時～20時
 12月3日(土)9時30分～16時

会場 東北大学医学部

初日の12月2日は,産業疲労に関わる教育セミナーを
 開催いたします。3日は特別講演,一般発表を行います。
 一般発表の演題募集を行っています。発表希望者は10月
 20日までに事務局宛にお申し込み下さい。

事務局:天理大学体育学部・近藤雄二

〒632 天理市田井ノ庄町80

TEL 07436-2-3076 FAX 07436-2-6245

国際シンポジウム

職場における中高年齢者の活性化-職才の世代-

日時 1994年10月19日(水)～21日(金)

会場 産業医科大学ラマツィーニホール

内容

職場における中高年齢者の健康,安全,環境,生産性
 をキーワードとした国際シンポジウムがWHO, ILO,
 や日本産業衛生学会などの後援で,産業医科大学ラマツィー
 ニホールを会場として開催されます。

日・英同時通訳による基調講演や研究発表が約60演題,
 職務設計や環境整備に関連した改善事例を中心にしたポ
 スターセッションが用意されています。

企業の衛生管理担当者や産業保健に関わるスタッフの参
 加をお待ちします。参加費は4万円(学生2万円)です。

詳細な案内・プログラムの希望者は産業医科大学人間
 工学研究室(TEL 093-691-7458),または以下の近畿
 地方の実行委員にお問い合わせ下さい。

滋賀医科大学福祉保健医学講座

岡山 明(TEL 0775-48-2191)

天理大学体育学部

近藤雄二(TEL 07436-2-3076)

大阪産業保健推進センター開設される

平成6年7月27日に大阪産業保健推進センターが大阪中央区堺筋本町に開設されました。既にご存じのとおり、労働省が労働福祉事業団の事業として「労働者の健康確保を図るためには、事業者自らの責務として健康管理・健康教育等の産業保健活動を積極的に推進するとともに、産業保健活動の担い手である産業医・保健婦・産業保健関係者を支援する」ものとして生まれました。

業務内容は、

1. 産業保健関係機関に対する支援
 2. 産業保健関係者に対する支援（産業医等の産業保健関係者に対して）
 - (1) 窓口相談・実地相談
 - (2) 情報の提供
 - (3) 研修
 - (4) 調査研究
 - (5) 広報・啓発
- 特に、2. については専門スタッフ（産業医学、労働衛生工学、メンタルヘルス、労働衛生関係法令、カウンセリング）が毎日相談に対応できるようにしています（予約制）。大阪産業保健センターでは、産業保健活動に携わっておられる方々（産業看護職歓迎）のご利用をお待ちしています。

所在地と利用時間

〒541 大阪市中央区本町2丁目1番6号

堺筋本町センタービル 9F

（地下鉄堺筋本町下車 17番出口へ）

TEL 06-263-5234 FAX 06-263-5039

休日を除く毎日 午前9時～午後5時

但し休日は毎土、日曜日および祝祭日

平成6年度 第2回幹事会記録

日 時：平成6年7月26日（火）14：00～16：00

場 所：エルおおさか 608号室

出席定者：堀口、藤木、圓藤、徳永、宮上、西山、河合、上田、小泉（順不同・敬称略）

欠席者：樹屋、近藤、岡田、武田、原田、中野

事務局：南、大原

I. 報告

1. 理事会報告

(1) 本部理事会報告

堀口会長と藤木副会長より本部理事会の報告があった。

(2) 産業医学の名称について

堀口会長から産業医学雑誌の名称について、さまざまな意見があり、最終的に一致をみていない。日本産業医学雑誌にするか産業医学雑誌にするかが大きな争点の一つになっている。さらに、英文名についても和文名と同様にJapanを付けるか否か議論が分かれているとの報告があった。

II. 議題

1. 選挙制度委員会

選挙制度改革委員会委員の選出（敬称略）

委員に圓藤、平田、渋谷、船岡、宮上が会長より指

名された。

前回の選挙時の問題点等を洗い出し、選挙管理委員会として望ましい案を作成し本年の末までに幹事に答申する。

2. 第34回近畿産業衛生学会準備状況

茂原学会長より書類で進捗状況の報告があった。

III. 事務局からの連絡

レーザープリンターを購入した

事務局からのお知らせ

(1) 年会費未納の場合

宛名タグの右下に“会費切れ”と印字することとなりました。

(2) 会費を振り込まれる場合

会員番号を明記して下さい。会員番号は宛名タグの氏名の後に記してある4桁の番号です。会員はあくまで個人ですので、会社名や団体名での振込は避けて下さい。

(3) 郵便局の振込Noが一部変更になりました。

従来の振込Noも当分の間使用できます。

〔お詫びと訂正〕

本誌前号で一部誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

2頁 平成5年度決算額の欄

本部交付金 1,100,000 → 1,110,000

編集後記

今年の夏は昨年の冷夏とは打って変わって、猛暑で、最高気温の更新が各地で相次ぎました。この暑さのお陰でお米が豊作なのはなによりです。困ったことに各地で水不足が相次ぎ、あまり知られていなかった四国の水瓶“早明浦ダム”が一躍有名になり、河川の水利権が現在でも脈々と生きていることに驚きを覚えました。この暑さもやっと一段落し、コオロギの鳴き声も聞こえ始め、朝夕は過ごしやすくなりました。

今年の第34回近畿産業衛生学会は、和歌山で開催されます。JR天王寺駅からJR和歌山駅まで約1時間で行くことができます。和歌山に行く途中、話題の関西空港を見ることができるかもしれません。できるだけ多くの方の参加を望みます。

(河合)

編集・企画担当者

(広報担当幹事・事務局員)

武田真太郎、上田美代子、近藤雄二、河合俊夫

宮上浩史、中野碩夫、南 勉、大原昭男

次回発行日 1995年1月1日

次回原稿締切日 1994年11月11日